

第1部会のまとめ

1 めざすべきまちのイメージと基本的な視点

(1) 次の10年、杉並をどのようなまちにしたいか

住む人がつながりを感じ、賑わいと活力のあるまち

住み続けたい、住んでみたいと思う安全・安心で魅力あるまち

自然を活かし育み、共に未来につなぐ豊かな環境のまち

(2) 基本的な視点

東京のまちが大きく変化している状況や高齢化の進行を踏まえ、将来を見据えた都市基盤の充実と成熟社会環境にふさわしい土地利用を図り、まちの利便性と快適性を向上させる。

区民の交流、つながりが深まり、多くの人を訪れたいと思うまちとなるよう駅周辺などを核として、まちの賑わいと多彩な魅力を広げていく。

住環境になじむ都市型産業の育成や都市農業の支援を行う。

まちの安全性を確保し、都市活動の機能継続性を高めるため、総合的な防災対策をより一層進める。

自然の力を暮らしや事業活動に活用し、エネルギーの自給能力を高めつつ、災害に強く、持続的な発展が可能な地域社会づくりを進める。

みどり・水辺の環境を守り育て、安らぎとうるおいに富んだ、自然環境と人の営みが共存するまちを形成する。

誰もが環境の視点で考え、共に行動できる意識と機運を高める。

2 政策の基本的な方向

(1) 利便性が高く快適なまち、魅力的で活力あふれるまちをつくる (まちづくり・産業)

利便性が高く機能的なまち

良好な住環境の中を走る小道路は、「すぎ丸」など小回りの効くミニバスが走行でき、駅へのアクセスなどの交通に重要な役割を果たしている。また、都市計画道路の整備率が約5割であることを踏まえ、プライオリティーを付けて南北交通を戦略的・優先的に改善するなど、都市基盤の着実な整備を図る。

誰もが楽しく快適に利用できるまち

施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの建物や都市空間、交通アクセスの整備等により、誰にもやさしいまちづくりを推進する。

魅力的で賑わいのあるまち

杉並のまちは均質で平板な構造であるが、交通拠点である駅周辺を核として、多心型の都市構造の実現に向けてこれを変えていくまちづくりを進める。

人と人とのつながりをつむぐまち

高円寺のまちは、文化芸術施設である「座・高円寺」の開館を契機として商店街や町会などが連携・協力し、まちの賑わいを生み出し、商業を活性化した。このように、様々な団体・個人が、それぞれ持つ強みを生かし、地域コミュニティの活性化と賑わいのために連携・協力する取組みを杉並の他の地域にも波及させていく。

杉並の魅力を発信するまち

区内の各地域が、その歴史・文化・自然環境などの特性を活かして、他地域からも人を引きつける多彩な魅力を創造することで、個性あるまちづくりを進める。

(2) 安全・安心なまちをつくる (防災・防犯)

安全・安心なまち

火災・地震や風水害などに対し、未然に防止することを最優先とし、不測の事態においても、まちの回復力を高め、都市活動が引き続き継続できるように被害最小化に資する減災対策を推進する。

防災力と防犯力が高いまち

防災・防犯には、地域のコミュニティの力や共助の取組みが重要となる。このため、地域の絆を高め、共に支え合い、助け合う地域社会づくりを進める。

(3)人と地球にやさしいまち、安らぎとうるおいのあるまちをつくる（環境・みどり）

環境負荷の少ないまち

再生可能エネルギーの利用拡大と省エネルギー対策に取り組むとともに、資源の有効活用を一層推進し、地球環境の保全に関する区民の意識や行動を支え、広く浸透させていく。

ゆとりとうるおいを実感できるまち

防災上の観点からも、区内の公園、農地や企業グラウンドなどの様々なみどりをつなげることで、みどりのネットワークを創出する。あわせて、多様な生物が生育できるうるおいと安らぎのある水辺環境を創出する。

一人ひとりが主役の環境のまち

区民や地域の団体、事業者が、それぞれ地域社会の主体として、環境に関する多様な取組みや自発的な行動を行えるよう、必要な支援をしていく。

3 戦略的・重点的な取組みの方向性

(1)都市構造の多心型拠点づくりと杉並の「顔」となる荻窪駅周辺まちづくり

駅周辺整備に合わせて商業の活性化を図るなど、地域特性を活かした複数の拠点づくりを計画的に進める。

同時に、50万都市である杉並区の大きな中心核を考えると、区内最大の交通結節点である荻窪がそれに一番ふさわしいことから、駅周辺地区の重層化・立体化等により南北分断を解消し、都市機能のさらなる強化を図って、荻窪の潜在能力を生かすことにより、杉並全体を伸ばしていくことが必要である。そのため、関係機関等と連携を図り、杉並の「顔」としてのまちづくりを、積極的に推進する。

(2)防災まちづくりの推進

「大地震は必ず来る」との考えに立って、これまでの防災対策を強化し万全を期すために、国や都と連携して、まちの不燃化や耐震化、延焼遮断帯となる道路の整備、低層木造密集地域の解消を一層進め、減災のまちづくりを総合的に推進する。

狭あい道路や大規模なオープンスペースの不足などが、杉並のまちにおける防災上の弱点となっていることから、機会を捉えて改善を図る。

区民の利便だけでなく、災害時の緊急輸送や救助・復興にも大きな役割を果たす、高井戸インターチェンジ(オンランプ)の開通について、今後10年以内の実現を図る。また、東京外かく環状道路(地下方式の本線)について、区民が利用しやすい道路となるよう、国・都への積極的な働きかけを行う。

(3)再生可能エネルギーの活用と省エネルギー・省資源対策による環境都市づくり

再生可能エネルギーの普及・拡大や省エネルギー・省資源対策を進めるとともに、情報技術を駆使し、区民の取組状況や成果を「見える化」することにより、暮らしや事業活動のあり方を見直し、低炭素型社会づくりと循環型社会づくりに向けて積極的に取組む。

環境技術の効果的な活用を図るため、区民・事業者及び学識経験者や研究機関等との協力・連携を推進する。

(4)みどりがつながるまちづくり

大規模な公園などを整備するとともに、まちの景観や環境、防災等の機能を合わせ持つ公園や屋敷林、農地などの拠点となるみどりと、住宅などのみどりをつなげることで、みどりの豊かさを実感できるまちづくりを推進する。

農地や屋敷林は、地域における環境、景観、防災などの面で大きな役割を担っていることから、後継者問題や税制上の問題への対応を検討しつつ、これらの保全策を講じていく。

4 全体に共通する事項

(1)ネット社会との連携について

今回の大震災では、情報伝達手段として、ツイッターやソーシャル・ネットワーク・サービスが有効であった。こうしたネット社会との連携は、区民との情報の共有や参加のためのツールとして、また、人々の交流・つながりを盛んにしていく観点からも、今後の重要な課題である。

(2)自治体間連携について

多様化・複雑化する課題に効率的・効果的に対応するためには、今回の大震災に伴う「スクラム

支援」などの自治体間連携、さらには住民同士や事業者同士の主体間連携の視点が重要である。
産業においても、友好自治体などと連携し、相互に補い発展し合う関係を築くことが重要である。

第1部会の審議状況について

	開催日時	主な議事
第1回	4月15日(金) 18:00~20:00	部会の役割・進め方についての確認 主な検討テーマの決定
第2回	4月26日(火) 18:00~20:00	「まちづくり」「産業」のテーマに関する議論
第3回	5月13日(金) 18:00~20:00	「環境」「防災(防犯)」のテーマに関する議論
第4回	5月26日(木) 18:00~20:00	「まちづくり」「産業」「環境」「防災(防犯)」の全てのテーマにおいて再議論
第5回	6月28日(火) 18:00~20:00	第1部会のまとめについて議論